

WIN CONCORD
コンコード

NEWSLETTER

2011
vol.21



WIN コンコードと留学生達

監事 松下 勤

私が WIN コンコードに参加するようになったのは 1992 年でした。WIN は、Wakayama Information Network の略です。WIN コンコードは 1991 年に設立されたばかりで、和歌山大学で学ぶ留学生は 29 人でした。留学生達との交流や生活のお手伝いなど活動が続けるうち、留学生は増え、1994 年には、倍の 58 人になり、2003 年には、また倍の 110 人になりました。そして現在は、約 150 人の外国人留学生が和歌山大学に学んでいるということです。今は人数が多くなっているので、私達もすべての留学生達と交流するのは不可能ですが、出来るだけ多くの留学生達と交流し、お手伝いしたいと考えて活動しているところです。

春の新入生歓迎の和歌山城での花見から始まる私達 WIN コンコードと留学生達との交流は、夏の清水キャンプ、秋の柑橘収穫、冬のスキー旅行の他、ぶんだら踊りや和歌祭など地域の祭参加、年に数回開催する「留学生の故郷を語る集い」など色々な機会を設けて行なうとともに、日常は個々の会員と留学生との交流や支援、行事参加、日本語学習などを行なっています。このような交流や支援を通じて、和歌山に暮らす留学生達に、和

歌山で学んでよかった、住んでよかったと感じていただけるよう期待しながら WIN 活動が続けています。このことが即ち WIN コンコード設立の趣旨であると同時に、私達メンバー自身もこのような交流活動を通じて、留学生達の出身国について直接つぶさに学べるとともに理解を深めることができるのも活動の楽しみのひとつです。

さて、今春から和歌山に留学された皆さん、ようこそ和歌山の地に来てくれました。心から歓迎いたします。また、それ以前から和歌山にいられている留学生の皆さん、もう和歌山の生活に慣れましたでしょうか。私達でお手伝いできることがあれば遠慮なく WIN へ声をかけてください。留学生の皆さんは、いろいろな思いをもってここに来られたと思いますが、和歌山に来られたからには、和歌山の生活習慣、社会習慣の中にどっぷりつきながら、専門の勉学に加え、日本の文化、和歌山のことなど身をもって大いに学んでいただきたいと思います。そのためには、同じ大学で学ぶ日本人学生との勉学を始め、学生生活を通じた交流と相互理解に努めていただくと共に、私達 WIN コンコードや他の団体、多くの和歌山の人々との交流に積極的に参加していただきたいと思います。1 年ないし数年間を和歌山で過した体験が、留学生それぞれの人生にとって、貴重な体験として、帰国後の仕事や活動に生かされ、母国と日本のかけ橋となることに役立つことを切に願っています。



マレーシアへどうぞ

ハリム (マレーシア)

私は、マレーシアのマレー半島の東にあるトレンガヌ(Terengganu)州から来ました。この場を借りて、私の国について紹介したいと思います。

まず、マレーシアは東南アジアのマレー半島南部とボルネオ島北部を領域とし、シンガポール、タイ、インドネシア、ブルネイと接する国です。首都はクアラルンプールで人口はおよそ 2700 万人で日本の 1/5 です。日本の面積の 9 割弱の広さの土地に、日本の 20%の人口が住んでいることになります。三つの主要民族と地域の歴史が複雑に混じって並存するマレーシアは、民族構成が極めて複雑な国の 1 つです。その三つ主要民族は、マレー系、華人系、インド系の順で多いです。



マレーシアの地図

国教はイスラム教だが、信仰の自由を認めているため、多民族国家を反映して仏教、ヒンズー教キリスト教など信仰する国民も多くいます。公用語はマレー語ですが、中国系住民社会では中国語、インド系住民社会ではタミール語が使用されています。また、各民族間で会話をする際はマレー語あるいは英語が広く使われているので、旅行では英語が主体となっています。

政体は立憲君主制の国であり、13 州から成り立っています。マレーシアと日本の関係はマハディル前首相が「ルックイースト(Look East)政策」を掲げてから、今まで維持されてきた関係です。

古くから世界的に有名であったペナン島などのほかに現在、ランカウイ島のリゾート開発などが行われています。これらの開発は、かねてからの主要産業の 1 つであった観光産業の振興にも貢献しており、政府観光局や航空会社との協力関係をもとに各国からの観光客の誘致に国を挙げて取り組んでいます。

マレーシアは島国なので、ペナン島のほかにま

だたくさんきれいな島があります。例えばジョホール(Johor)州から行ける大自然に覆われて、透き通る海とサンゴ礁、ホワイトサンドのビーチが最大の魅力で、世界でも有数のダイビングスポット



として人気が高いティオマン(Tioman)島です。

マレーシアでは海だけではなく、山も有名です。マレーシアでも一番有名な高原リゾートはパハン(Pahang)州にあるキャメロンハイランド(Cameron

Highland)です。一年中暑い国でも、標高が 1500m を超えるため、年間を通じて気温が 20℃前後と涼しいところです。現在、マレーシア最大の茶葉生産地域であり、高原野菜などの生産も非常に盛んです。また、近年、年金生活者を中心として、日本人の長期滞在者も増えています。

最後に、私の故郷、トレンガヌ州について紹介したいと思います。州都はクアラトレンガヌ(Kuala Terengganu)で面積は 605km²、およそ日本で最小面積の都道府県、香川県の半分で人口はおよそ 35 万人です。観光については、近郊の海のきれいなプルフンティアン(Perhentian)島、レダン(Redang)島、カパス(Kapas)島などが有名です。レダン島はマレーシアでも最も美しい島の 1 つで、9 つの島から形成されておりサンゴ礁が非常にきれいなのが魅力でシュノーケリングやダイビングが非常に人気です。周辺には 500 種類に及ぶサンゴとおよそ 3000 種類魚が生息しています。



レダン島

トレンガヌ州のもう 1 つの魅力はウミガメが産卵する場所があります。ランタウ・アバン(Rantau Abang)は毎年、産卵シーズンにウミガメの一種であるオサガメが産卵することで有名な海岸です。

現在、エアアジア X (Air Asia X)、マレーシアの格安航空が 2010 年 12 月からクアラルンプールー羽田間に就航しました。チケットは新幹線代より安く、就航してから初めてマレーシアに旅行する人も多いです。是非マレーシアに遊びにいらしてください。



真夏の宴—summer camp

魏 国棟（中国）

皆さん、こんにちは。魏国棟と申します。中国の山東師範大学からの交換留学生です。

私は今年の四月に和歌山へ来ました。あっという間、もう半年過ぎました。本当に速かったです。しかし、速い感じがあるのは、やっぱりこの半年の留学生活は楽しかったからです。

今年の夏はすごく暑かったです。でも、WIN コンコードの皆様のおかげで、私はこの暑い夏休みを楽しく送りました。「ぶんだら祭り」の踊りとか、「おどるんや」の交通整理とか、高野山でのhomestayとか、それぞれは将来のいい思い出になると思います。その中で、一番楽しかったのはキャンプでした。

キャンプは清水で行いました。清水は和歌山から遠いです。車で二時間半かかるのは、車に弱い私には本当に大変なことでした。でも、山道なので、車が止まることは少なかったから、無事に到着しました。

まず、みんな一緒に吊り橋に寄りました。名前を忘れてしまいましたが、あそこのすばらしい景色は絶対忘れません。

そして、昼ご飯でした。お母さん達のおかげで、おいしい親子丼を食べました。それから、一番面白い活動に入りました。みんな一緒に歩いて、山の中にある川に行きました。途中の景色は本当にきれいです。山の深緑と稲の浅緑と空の青さはすばらしい絵のように組み合わせられています。川に着いて、ゴムボートを出し流れに乗って遊びました。水をかけあったり、ボートをひっくり返したり、大騒ぎでした。水はきれいで冷たかったです。水がきれいなので地名が清水と言うのだと思いました。

その後、私は魚釣りをしました。魚釣りと言えば、中国では、魚釣りの場所は海とか湖とか、水が深いところです。このような浅い川での魚釣りは初めてです。魚が釣れるかなと疑いました。最初、あのような柔らかい釣竿を始めて使ったので、ちょっと違和感があって、魚をぜんぜん釣れませんでした。でも、日本人の方からいろいろな経験を教えてもらって、やっと釣れました。小さい魚だけでしたが、その楽しさが大切だと思います。川から帰って、バーベキューをしました。この



キャンプを支援してくれた社長さんのおかげで、そのスタッフ達が蝦、イカ、ソーセージなど、いろいろおいしい食べ物を焼いてくれました。その中で、ソーセージが一番人気でした。その味は言葉で表現できないほど本当においしかったです。焼き物で何か出来上がりましたら、みんなはすぐ自分のお皿を出して、「食べたい、ください」と言っていました。今、あのことを思い出したら恥ずかしいと思いますが、あの時の情景はとても賑やかで面白かったです。

その後、お酒を飲みながらいろいろな罰ゲームをしました。社長さんもお母さん達も各国の留学生も、まず自分の国のゲームを紹介して、ひとつずつみんな一緒にしました。社長さんは負けた時、罰として首相の声を真似してくれました。おもしろかったです。夜遅くまで、みんな喋ったあと昼の部屋で合宿みたいに寝るのは、私は初めてです。静かな夜に、外の虫の音を聞きながら、眠りに入りました。いい体験でした。

翌日は、ゲームの時間でした。泳ぎが好きな人はもう一回川に入りました。ほかの人はトランプをしたり、日本語の歌、「上を向いて歩こう」や「未来へ」などを歌ったりしました。歌を歌った時に、全部古い歌ですが、各国の留学生たち一緒にカセットを聞きながら、大きい声で日本語の歌を歌って、カラオケと違って、もう一種のすばらしい雰囲気でした。昼ごはんの後、みんな一緒に部屋を片づけて、最後の挨拶をしました。集合写真の後、みんな和歌山へ帰りました。

私は中国でこのようなキャンプをしたことは一回もなかったので、この日本での人生の初めてのキャンプは絶対に忘れません。世話をしてくれたお母さんお父さんと友たちに感謝しています。

私は外国人として、日本でこのような多国交流活動に参加できてとても嬉しく思い、いい勉強にもなって、本当に有り難く思います。中国に帰っても、自分の力を尽くして、国際交流に頑張りたいと思います。

パナソニック見学・スキー旅行

王 海鵬（中国）

去年のサマーキャンプのように、二日間のウインター旅行もやって来ました。

2011年2月15日、パナソニックセンター大阪と松下幸之助歴史館へ見学に行きました。パナソニック株式会社は、日本の総合家電と電機専門のメーカーとして、世界首位であることは有名です。パナソニックセンター大阪も、パナソニックの総合情報発信拠点です。日本にいた間に、大阪のパナソニック会社見学ができて良かったです。ここで、館内のいろいろ見どころをアテンダントに紹介してもらいました。例えば、ビエラはさまざまな機器とつながって、「見るテレビ」から「使うテレビ」へと進化し続けて、3Dテレビの楽しみ方を体感しました。そして、プラズマテレビと液晶テレビの違いや最新の3Dデジタルカメラなどを紹介してもらいました。つまり、3Dビエラ、3D撮影など「3D」テーマが中心でした。

この他に、私たちは地球温暖化の原因や影響を知り、温暖化防止に向けた活動などを学び、自ら取り組むエコアクションを宣言しました。パナソニックは「環境革新企業」を目指し、地球市民として、省エネビジネスとCO2±0（ゼロ）のくらしなどのエコ活動を広げることを知ったのです。

この後、松下幸之助歴史館へ移動しました。ここでは、創業期から今までの幸之助の生涯の歩み展示とパナソニックのさまざまな早期実物を見せていただきました。

例えば、電池式自転車ランプ、初めてのナショナルの商標、電気アイロン、ラジオといった創業期を支えた製品をはじめ、昭和30年代の家庭電化ブームの中、「三種の神器」と称された白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫など第1号製品の実物が数多く展示されています。一番印象深いのは松下幸之助の「道」という名言です。商売の道も人生の道も、広い時と狭い時がありますし、のぼり道とくだり道があります。あらゆる道に遭っても、心を定めれば希望を持ったら、道が開けてくるという励みになる言葉です。

一日目のスケジュールを順調に進め、夜は岐阜県のホテルに着きました。贅沢なバイキングをご馳走になってから、カラオケに行ったり、温泉に入ったりして、皆お互いに仲良くなりました。



翌日の朝早く、ひるがの高原スキー場へ出発しました。皆車窓から外の壮大な雪景色を眺めながら、写真を撮って、すごく興奮していました。ようやくスキー場に着きました。スキーウェアを着て、スキーブーツを履いて、ビンディングとストックを持って、白い世界に踏み込みました。

スキースクールに入りましたが、ほとんどが初心者だったので、上手な転び方まで、2時間で勉強しました。合格者はそれぞれ山上までリフトに乗って挑戦しましたが、私のような補習者はまた1時間のトレーニングをさせてもらいました。バランスを取るために、先生がストックを持たずに滑らせる時もありました。止まらない時、先生は私達に「ハの字、ハの字」を気づかせながら、「よーし」って止まりました。何回も何回もリフトに乗って、滑ったり転んだりして、だんだんうまくなりました。「アァ〜」周りの友達の面白い転んだ姿を見ながら、気を抜かず滑って、真っ白の世界で思う存分に楽しんでいました。

二日目のスケジュールが終わり、一日スキー場で頑張った皆は、とても疲れて、車でぐっすり寝ました。和歌山に帰った時、もう10時になっていました。お互いに別れのあいさつをして、二日間の見学旅行はここで終わりました。

一年間の留学生生活を振り返ると、四月のお花見から、最後の旅行まで、WINの方々のおかげで、一年間の留学生生活はとても充実に過ごせました。

日本の文化と生活を耳で聞き、目で見、手で触り、心に残り、このような体験ができて、なんと幸せだろう！

去年4月に留学に来た交換留学生は皆そろそろ帰国します。この一年間、本当にWINの方々にお世話になりました。

ありがとうございました！！

新留学生紹介

ガニインドラン ライノー ラジ
(マレーシア)

はじめまして、ガニインドランと申しますが、ガニと呼んでください。マレーシア生まれで、四人兄弟の三番目です。マレーシアの家族は父母の他に、姉、兄と弟で皆が仲良く住んでいます。

日本語学校は高校卒業後、二年間通いました。そして、日本に来て、和歌山工業高等専門学校の環境都市工学部で三年間勉強しました。和歌山大学の環境システム学科に編入します。高専は御坊という町にあります。

私は元々家が首都のクアラルンプールにあり、バリバリの都会人でしたけれど、御坊の田舎の雰囲気は結構好きでした。たまに買い物とかする時に「面倒だなあ」と思ったときがありましたが、町の人々は優しくかったから、大好きでした。和歌山県民も近畿の皆がそうだと信じています。

私は趣味が大きく二つがあって、スポーツと本です。小さい頃からスポーツが好きで、色々なスポーツやってきました。五、六歳からよくバドミントンとサッカーをしました。日本語学校と高専ではバスケットとラグビーをしました。大きな体を持

っているから(=太っているから)スポーツはあくまでも好きなだけで、決して上手ではありません。

本を読むことも好きです。英語の小説は年間で少なくとも20冊読んでいましたが、日本に来てからなかなか手に入らなくて、あまり読めなくなりました。でも最近、日本の漫画とアニメの影響で、日本語の小説も頑張って読んでいますが、やっぱり漢字が多くて、まだまだ普通の日本人のペースで読むことができません。

自分は寂しがりで、友達がなかったらすぐ凹みます。遊ぶのが好きで、あまり勉強しないから最近困っています。言語を多く喋ることができるから、皆が話しかけてくるのを楽しみにしています。一緒に楽しい留学をしましょう。

孫 鳳蔚 (中国)

皆さん こんにちは、経済学部一年の新入生で孫鳳蔚と申します。私は去年の四月に日本に来ました。日本に来てもう一年半たちました。和歌山に来る前、宮崎県のえびの市に住んでいました。日章学園九州国際高等学校で楽しく、充実した一年間の留学生活を送りました。三年間一緒に勉強した友達と別れたけれど、自分の夢のために和歌山大学の新しい留学生活を迎えます。とても幸せだと思います。



和歌山市にきた後、とても優しい先生と親切な先輩たちに知り合いました、いろいろなことを助けてくれました、いろいろなことで和歌山の方がすごく美しくて親切だと感じました。

私は 1992 年 4 月 29 日に生まれました。私の故郷は中国の吉林省の長春市です。長春市はとてもきれいな町です。人口が 870 万人で住みやすい所です。長春第一自動車製造工場と東洋ハリウッドと呼ばれている長春映画撮影場があります。世界中からたくさんの観光客がやって来ます。

私は、自分の好きなことに対して、勉強熱心だと思います。一旦決断すると、途中で諦めたりしない性格です。私は中学生の時、中国で民族音楽を二年間勉強しました。得意ではないけど、音楽がとても好きです。水泳とか、スケートなど、たくさんの趣味があります。

私は高校生の時、中国の新聞の連載記事で成功例を読んだことがありました。一番印象に残っているのは、卒業間もない大学生が就職に失敗し、自分で企業を起こし、次第に力を発揮し、大成功を収める例です。私は大変感動し、尊敬の気持ちも持ちました。私もこのような人になりたいと思いました。その時から、経済学に強い興味を持つようになりました。私の将来の夢は、中国で、母国の経済発展と日中交流に寄与したいと思っています。中国が経済発展をすればするほど、中国国内、国外でいろいろな問題が起こっています。私はまず、日本で先進的な経済学を学び、問題解決に取り組みたいと思っています。そのためには、経済先進国日本の大学で経済を学ぶ必要があります。だから、入学後、絶対一生懸命勉強します。

これからお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

トウザノエ(ミャンマー)

皆さん、初めまして。私はミャンマーから来たトウザです。私の専門は英語教育だから、英語教育の教員研修プログラムに参加しています。生徒のリスニングとスピーキングの能力を伸ばすために勉強したいです。日本で勉強したことを自分の国へ帰った後、役に立てようと思います。

私は日本の着物に興味があり、いつか着てみたいと思っています。日本食も大好きで、作り方を教えて欲しいと思っています。いろいろな文化を体験したいと思っています。日本のボランティアグループのすべての活動に参加したいと思っています。

大阪大学の日本語集中クラスはいろいろな国の留学生がいてとても楽しかったです。



グエン ホアン カム トウ(ベトナム)
はじめまして。ベトナムからのグエンホアンカムトウと申します。名前はちょっと長いですが、トウを読んでください。日本に来てからもう1年になりました。昨年は岩手県の盛岡市にいて、すごく寒かったですが、今和歌山は暖かくて、いい天気です、とてもいい気持です。そう言えば、和歌山に来て、岩手からだということ、みんなに大丈夫でしたかと聞かれました。やっぱり、日本は今年すごく大変なことにあったんですね。でもこのことを通じて、復興するのを自分の目で見えるチャンスだと思います。

和歌山は暖かくて、ちょっとベトナムと同じ様な気がして、住みやすいところだと思います。今和歌山の4年間の生活をととても楽しみにしています。いろいろな勉強をして、たくさんの人と交流していきたいです。私の趣味は旅行でおいしい食べものを楽むことです。そして外国の友達を作るのも大好きです。皆さん、よろしくお願いします。

石 斌(中国)

こんにちは、石斌と申します。中国の山西省から参りました。今年から和歌山大学の経済学部一年生になりました。2008年4月2日に日本に参りました。今日は2011年4月2日で、もう3年経ちました。横浜市の翰林日本語学院で日本語を勉強しました。2年の間に各国の学生たちとお互いに励まして、友達になりました。最初のア、イ、ウ、エ、オから、今の1級まで、たくさん一生も忘れないことができました。2年間の日本語を勉強して、大学を受験して、落ちました。悔しくて、いい大学に入るつもりで、進学コースがある専門学校に進学しました。様々な素晴らしい人と出会い、新たな自分を見つけ、一年間をかけ、和歌山大学に合格しました。すごく喜んでます。

私の趣味は食べることで、食べ物なら何でも食べます。又、言語、旅行なども大好きです。食べ放題は必ず一週一回です。自分も料理が得意です。

これから、和歌山大学に専門知識を身につけながら、いろいろな人と友達になって、豊かな生活を送りたいと思います。いろいろな計画に沿って頑張ります。皆さん、私を応援してください。

ゴー キアン キオン (マレーシア)

ゴー。そう、僕の覚え易い名前。フルネームは“ゴーキアン キオン”、漢字で書くと“呉健強”。175cm, 66kg, 1988 年生まれ(23 歳)の体がいつも健康で強いという意味、お母さんから貰った超最強な名前。関西弁でママに“ありがとう”。姉弟の末っ子。親はマレーシア、姉は仕事でシンガポール、僕は日本。それぞれの居場所がやば過ぎ。これで出来る、海外旅行♥

日本。正直の一言で無理。他の子と全然勝てない自分の成績でガタガタだった面接の後、一回もいけるとは思わなかった思いもよらぬまさかの奇跡の起こり☆面接に受かるってば！おっと、もらったぞこの人生を変えるチャンス！そこで僕は一生懸命で頑張って、ここまで来た日本に。やっぱ国とは全く違う次元。まだ覚えているあの超速い歩き方をしたちょっと可愛いおデブな姉ちゃんの歩くスピードに完敗した経験。クソ+悔しい(´m´#)！まるで別世界。また復讐したい(´曲´)！これをきっかけにしてもっと“頑張るで！”と自分への励み(嘘くさい)。日本人の世界一の真剣さ、態度にショックと感動する、それが本当のきっかけ。自分にもだんだん“日本化”というか、“日本人ちゃいますか”とよく聞かれる自分の顔。マレーシアでもたまたま“マレー系ですか”という突撃の質問。中華系なのに。これはホンマ。

和歌山大学。ニックネームは和大(格好いい省略、微笑)。正直の話は来たくない。詳しく言えば、大学受験で他の大学が落ちたから、ここに来た訳。別に好きじゃないという訳でもなく、何か関東の方に行きたいという理由。けれど、今ホットとした安心感。特に優しい先輩や WIN コンコードの偉い美人ママ達やフレンドリーな地元の人など。それが和歌山。まるでマレーシアとの比例関係。3 年間で住んだまだまだ分からん和歌山。そう、昔は和歌山県にある御坊だったが、レベルアップした和歌山市に変身。ちょっと嬉しい。いや、めっちゃ嬉しい。だって、パームシティー、ガーデンパーク、和歌山城、などなど。これからは楽しみ。

一言。3 年間ぶりの作文で上手く伝えない文章。けど、自分の日本語がこんなに成長とは。いや、まだまだ足りん自分の経験値。これからはもっともっと増やす自分への楽しみな生活。

皆さんどうぞよろしくお願いします！



裴 珍我 (韓国)

皆さん、こんにちは。私は韓国の慶北大学校から今年 4 月 1 日に交流学生として 1 年間和歌山大学に参りました裴珍我と申します。教育学部で勉強することになりました。2 月頃、交流学生の合格の話を聞いてとても嬉しかったです。学部の先輩たちや院生の先輩の中で和歌山で勉強した人たちが全部「和歌山はとてもいいところよ。大阪も近いし、きれいな海があるんだよ。学校の生活もとても楽しいんだよ。本当に羨ましいなー」と言いました。でも、心配事も多いでした。まだ日本語も下手なのにうまく日本で勉強することができかどうか、後輩と一年間仲良く生活する事もできるかどうか……。そして 3 月 11 日の東北震災も大きいな心配でした。特に家族がみんな心配して、つらいでした。でも、私は 3 月 11 日釜山でフェリーに乗って、予定のままで出発しました。海から見える夜の空はとても綺麗でした。そして、4 月 1 日大阪に到着しました。まだよく分からない日本に来て、後輩と二人で不安でしたが、優しい人達が助けてくれましたので、いよいよ無事に和歌山まで来ました。

学校の先生たちと一緒に会館まで来ましたけど、何もなくて困りました。食べ物も、飲み物もぜんぜんなくて広い部屋で一人でぼんやりしていました。その時、WIN コンコードの方が会館に来ました。まだぼんやりしていた私と後輩は自転車と炊飯器を貸してもらいました。「辛いことや必要なものがあつたらいつでも連絡して下さい。」っておっしゃってくれました。本当に嬉しかったです。まだ慣れていない日本の生活も、学校の生活もうまく出来るだろうと勇気を出すことができました。

2 階に住んでいる院生のお姉さんもととても優しい人でした。お姉さんと後輩と一緒に買物に行ったり、遊びに行ったりしながら和歌山の生活もだ

んだん楽しくなりました。会館で一緒に住んでいる人たちもとても優しいです。中国、マレーシアなど、いろいろな国から来ましたが、みんな優しいところは同じです。本当に感動しました。

和歌山は優しい人もたくさん、美しいところもたくさんあるとてもいいところです。私はまだ日本語も、生活も下手ですが、和歌山でいろいろなことを勉強したいです。あと、一年間悲しいことも、楽しいこともたくさんあるでしょう。でも、私はどんなこともすごく楽しみで待っています。一緒に勉強している留学生の皆さん、一緒に頑張りましょう。そしていつも私たちの留学生生活を支援してくださる WIN コンコードも皆様、そして学校の先生の皆様も本当にありがとうございます。どうぞ、よろしくお願いします。

レナルド ラホイラホイ(フィリピン)

私はフィリピンから来たレイで 33 歳です。7 人兄弟です。趣味はバレーボールと読書、書くことです。特に本からは多くの学ぶことがあります。日本の食べ物が大好きです。お好み焼き、うどん、お茶、とても美味しいです。

ミンダナオ州立大学附属、イリガン工科大学の化学専攻課程で学位を取得し、11 年間教育に携わっています。私は健康で、信心深く、友好的な教師で、学生時代は、学業・課外の両方において多くの活動に参加しました。

学校での職務は化学教員、クラス担任、YES-O という組織のアドバイザー、教員デモンストレーターといったものです。

一方、課外活動ではバレーボールのコーチ、学校と地域活動の両方で式典の責任者、科学キャンププログラムのプランナー、振付師、タレントサークル会社のアドバイザーなどをやっています。

しかし、こういったことをしているからと言って、私の直接関わる生徒たちに、彼らの要望や個性に応じた質の高い教育を施していく、という私の責任を忘れたわけではありません。

自分のことを、普通の家に生まれ育った普通の人間だと思っていますが、その目指すところは、故郷の人たち、特に生徒たちに尽くしていくということです。私のゴールは、どのように人々に尽くしていくか、より公平で平和な共同体を造っていくのに、どう私の知識、スキルや才能を生かしていくかということです。

私は教えることに情熱を感じます、なぜなら学ぶことで多くの人が無知という拘束から自由になるからです。さらには最も高貴な職業だと考えら



れています。それは個人の気持ちや思考力をかきたてるからです。そしてまた実践力のある市民となるため、全個性を形成していくものです。

文部科学省の教員研修プログラムの奨学生に選んでいただき感謝します。この課程の中で化学の参考書やマニュアルを作成していきます。

和歌山での温かいもてなしに対し、WIN コンコードのメンバーの方々に感謝いたします。素晴らしいボランティアのその神髄と精神を発揮していけますように！

THAO (ベトナム)

皆さん、はじめまして。ベトナムのホーチミン市からきた Thao です。私の名前は日本語でタオと読みます。ベトナム語で、Thao の意味が二つあります。“大人しい”と“草”です。それで、時々冷静なオーラを持っているみたいと言われることもあります。4 月に交換留学生として日本へ来て 1 年間和歌山大学で勉強します。教育部の 2 年生です。漫画とアニメが好きですが内容が分からないので日本語を勉強し始めました。安達充の漫画が一番印象に残るのです。それに、暇なときに音楽を聞きます。大好きなアーティストは嵐です。同じ趣味を持つ人と話し合えればすごく嬉しいです。

ところで、ベトナムのことについてどんなイメージを持っていますか？じゃ、簡単に説明します。ベトナムは東南アジアにあって S のような形の国です。熱帯の国なので、一年中温度は 25 度以上、つまり、暑いです。きれいな海に囲まれていますから海産物がたくさんあります。私の町のホーチミン市は小さいですが人が多くていつもにぎやかです。それで、和歌山市に着いたとき、ここの静かさに驚かれました。これから、みんなと一緒に学生生活を楽しく過ごしたいです。ナイスなメモリをいっぱい作ろう。よろしくお願いします。

就職活動に向けた勉強会

理事 出口 勝美

一昨年から、WIN では、外国人留学生の就活支援を開始した。外国人留学生の留学目的は様々だが、日本企業に就職したいという希望者は多い。

一方、留学生の実力は過小評価され、就職率も高くはない。何故なのでしょう。私達は彼らの会話能力と日本理解が課題であるとの問題意識を持って支援活動を始めた。

他大学で行われている就職支援講座を参考にしながら、指導者二人で週 1~2 日間、4 名留学生を相手にスタートした。彼らは中国からの留学生(院生)でこの三月に卒業。全員見事に日本企業に就職し、社会人として巣立って行った。彼らの努力と熱意が実を結んだ訳だが、同時に WIN での就活支援が、彼らに日本企業への就職が如何に厳しい現況であるのか、またそのために何を勉強すべきなのかを気付いてもらうことに寄与したのではと、ささやかな喜びを感じている。

和大の留学生は中国からの留学生は殆ど。彼らの日常は下宿と大学とアルバイト先をグルグル回る毎日で地域社会との触れ合いも乏しい。下宿では、ネットで中国の友人と交信。大学では、中国人留学生と会話。バイト先は大体飲食、サービス業で、簡単な日常会話のみ。日本の新聞、雑誌を読みテレビを見ることも少ない。きちっとした日本語での会話、まして議論などの機会は殆どない。敬語を使うことや日本のルールやマナーなどを学ぶ機会や使う必要もない。

会話能力の向上には、言語や文法だけでなく、言葉として表現される背後の文化を理解することが不可欠。WIN がこれまで進めてきた家庭訪問、サマーキャンプ、祭りへの参加、みかん狩り、会社見学などなどの地域交流事業の重要性を今改めて再認識している。

就職活動に向けた勉強会も 3 年目。指導者も増え、現在は 5 名体制。また月に 2 回程度だが、勉強会参加者によるグループ・ディスカッションも行っている。留学生には非常に刺激的で、魅力があるようである。

この勉強会には希望者はだれでも歓迎したい。しかし参加するだけで日本企業への就職が叶うわけではない。就職活動に向けてどのような準備と努力が必要なのかを理解し自覚してもらうことがこの勉強会の目的である。

和歌山で過ごして

楊 舒天 (中国)



私は和歌山大学経済学研究科卒業生です。

中国の西安出身で、国内大学の日本語学部を卒業後、2007 年 9 月に日本に留学に参りました。来日した最初の頃、大阪の京橋の繁華街に住んだことがあります。その後、進学のため 2009 年 4 月に大阪から和歌山市に引っ越しました。大阪の交通の便利さに慣れた私は、初めて先進国でも大都会と田舎の格差が分かるようになりました。しかし、和歌山ならではの魅力も見つかりました。

まず、WIN のボランティア先生方をはじめ、アルバイト先の友達も含め、皆いつも優しくしてくれて、本当に感動しました。様々な行事に参加させて頂き、本当に楽しくて、いい思い出になりました。その他、就職活動に向けた勉強会の先生方のご親切な指導のお陰で、日本で就職もできて、感謝の気持ちいっぱいです。

和歌山は環境が良く、特に和歌山の青空が大好きです。夏休みの時、よく友達と一緒に和歌浦や加太の海水浴場へ海水浴に行きました。もちろん、青空の写真をたくさん撮りました。紀三井寺と和歌山城での花見、根来寺の紅葉、白浜温泉と海、その写真を見るたびに、和歌山に住んでいた頃の感動が胸の中に溢れました。

また、和歌山に住んでいた 2 年近く、私もずいぶん成長しました。自分に対する理解、社会に対する理解、日本と中国に対する理解、全部深く理解できるようになりました。これは、私にとって貴重な体験と言えます。

これから、仕事のため再び和歌山から大都会の東京に戻ります。寂しい時、悲しい時、疲れた時、きっと和歌山にいらっしゃる優しい皆様を思い出します。いつも支えて頂き、本当にありがとうございました。

初めてのマルセイユ散歩

ダアン・レオボル (フランス)



さあさあ、ついに出版されたぜ！！お待ちかねの街ガイド！しかも今回は常夏の街、マルセイユの巻！興奮するでしょう？しないか？やっぱりするでしょう！

マルセイユと言うても、みんなわかってくれるのかね？ 南フランス。地中海沿い。印象派の画家たちが最も好きだったプロヴァンス地方にある、2600年以上の歴史を重ねてきた港町、マルセイユ！！参考のため、マルセイユは首都パリに次ぐ、82万6700人の人口でフランスの第2位の都会だ。すごいでしょ？まあ、人口過剰日本と比べたらたいしたことないかもしれへんが、フランスだったらかなり都会ですよ。

あ、そう！念のため、ちょっと質問コーナーに入ってもいい？

さあみんなさん、マルセイユといえば！ 思い浮かぶのは何でしょ？ はい、どうぞ！

ブイヤベースだと？観光客向けの冷凍魚をすりつぶした薄いスープはマルセイユの名物料理にされてたまるか！！

個人的な意見ですが、日本と同様に、観光客用に、多言語の写真つきメニューなどあるレストランはできるだけ避けるところです・・・逆に、小さくて、ガイドブックなどに載ってないフランス語だけの手書きメニューのレストランの方が間違い無く美味しいです。つまり「ガイド書を捨てて町へ出よう！」ってことよ！

はい、次の方どうぞ！ 石鹸か？まあ、石鹸は確かに有名やけど、また大したことないと思うけどな～・・・

なんて？ペタンクか？ ペタンクはいいよ！おっちゃん達の娯楽。でもやっぱ楽しいー！！

パステイスを飲みながらね。パステイスってみんなわかるのかな？説明したげようか？

パステイスはね、アニスからできているリキュールです。水で割って、もちろんロックでね！ああ、うま～い！！でもね、アニスの味はね、日本人の口に合わないらしいんですよ。プロヴァンスで有名なお菓子カリソンもそう。日本ではない味だからかな？とりあえず、きっかけがあれば、是非！んんん、次何話そうかしら・・・

あ！わかった！マルセイユのおススメスポット！マルセイユってね、穴場だらけですよ！よく汚いとか厳しいとか言われているけれど、一度住んでみなければ分からない、分かる人にはわかる街。よっしゃ、紹介させてもらおう！

①ノートル・ダム・ドゥ・ラ・ギャルド

マルセイユを見守る女性像の教会。その高台からは街中が見渡せる。その断崖絶壁の頂上までワインをもってピクニックへ行こう！でも転落注意！

②ノワイユ

街の中の街。食べ物、盗まれたてのケータイ、武器、なんでもここで見つかる。大売り出しは一年中無休！マルセイユの駅を降りて、まずはじめに探検すべき場所。気分転換に最適！

③プチニースとその周辺

街の中心からすぐの海水浴場。美しい白い岩があって、日焼けして、泳いで、日焼けして、泳いで、日焼けして、また泳いで・・・そんな絶好のスポット。(注) 初心者の飛び込みの際は、丈夫なバスケットシューズ着用のこと！（でなければ、血をみることに・・・）

④カラंक

町の中心からちょっと離れた自然に囲まれた漁村。海の深いブルー。空のブルー、岩のしろ。水しぶきの白、草の緑。花の赤、黄。カラフルが風に吹かれて頬を伝います。夏が着たらほとんどそこに。等々等々等々！！

今日はここまでにしとく。潮風にさらされた骨太のゆかいなものがごろごろ出てくるこの街のことは言い切れないのよ。

山と海にかこまれた美しい都会の景色と、実はこっぴどりのいわゆる関西気質にとっても似た人たちが迎えてくれます。よその者に対してはもちろん喜んでウェルカム！

みんなさん、ぜひ人生に一回行ってみてほしい！ほんとに～

さてさて、マルセイユのことを書くとあんまりにも恋しくなるから、ぼちぼちお別れしようか。

マルセイユでは、ガラスの破片の入ったケバブ

が食べれるし、猫を食べる浮浪者もいるし、怖い目に会うことがあっても、お愛嬌。そして何よりも、太陽の下のんびりする時間と一生の友達が見つかるところ。

和歌山出身

ドビエン・マノン (フランス)



和歌山に来た時、こんなすばらしいもてなしを期待していなかったんです。どこに行っても、人はすごく優しくて、問題があったらいつも手伝ってくれます。この町には、優しい人しかいないかなと思っていました。今は和歌山へ来てからもうすぐ五ヶ月になって、やっぱりそのとおりだと思います。今まで会った人はみんな気前がすごくよくて、心も広いです。私はいつも不安に思っているお母さんに「心配しないでね!和歌山の皆さんは私の面倒を見てくれるから!」と言っています。

それを言えるのは、WinConcordとIECが家族みたいに留学生の世話をしてくれるからです。問題があったらいつも手伝ってくれて、その方々のおかげで毎日はずごく楽しいです。日本へ来てからそんなに長くないのに、いい経験がいっぱいあって、日本の文化についてたくさん学びました。みんなに出会ったから、みんなも和歌山も好きだから、毎日を大事にすることを学びました。フランス人に日本の生活について聞かれる時、私はいつも日本の生活は簡単だと答えます。もちろんサービスがいいですが、その上日本人は毎日の生活を楽しくすると思います。一人暮らしの経験がなかった私は、義務を果たして独立するというのはつまらないことだと思っていましたが日本で独立するのは簡単で楽しいです。

日本の文化には習慣や伝統がたくさんあって、昔から守られています。その日本が大好きです。毎月その伝統についてもっと学んで、それについてたくさん知っていると思っていたのに毎日新しいことを習います。日本の歴史と伝統は一生勉強しても全部知らないと思います。それは日本のすばらしさだと思います。

フランスに帰るのは、普通の生活に戻ると言うことです。この一年の留学は一生の大事な時期で、一生忘れない経験になります。私は今年初めて一人暮らしをして、その初めての経験を日本でできて嬉しいです。

そして、和歌山大学を選んでうれしいです。人の選定は人生を変えと言われています。この選定は、私の一生を変えました。フランスに帰ると、私の出身は和歌山だと言えるようになりたいです。

2010 年度 活動経過

4月4日	新入生歓迎会 (和歌山城)
5月4日	県立博物館・美術館訪問
5月15日	WIN コンコードニュースレター20号発行
5月16日	第2回 NPO 法人 WIN コンコード 総会・交流会
5月16日	和歌祭り渡御行列参加
6月21日	歌舞伎鑑賞会
8月7日	紀州ぶんだら踊り
8/27~28	サマーキャンプ (有田川町)
10月3日	第19回留学生の故郷を語る集い 後期新入留学生歓迎会
10月10日	万葉新能鑑賞会
11月6日	みかん狩り (有田市)
11月7日	第2回 WIN コンコードバザー開催
11月21日	大学祭 模擬店協力
12月11日	餅つき (新堀保育園)
12月23日	八朔狩り (紀ノ川市)
1/1~3	お正月 (ホストファミリー)
1月9日	成人式参加
2/15~16	パナソニックセンター大阪・松下幸之 助歴史館見学とスキー旅行
3月25日	卒業パーティー

年 間	住宅紹介・入居・転居の支援 生活用品の貸与、生活情報提供 ホストファミリープログラム 就職活動に向けた勉強会
-----	---







W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべての分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

<http://www.win-concord.jp>